提出日 令和2年07月29日

アルゴリズムとデータ構造 第10回課題レポート

学籍番号(A19117) 氏名(永尾優磨)

【課題】

1. ハッシュについてレポートにまとめよ

ハッシュとは、0(1)という計算量で探索を行える優れたアルゴリズム。なぜ、ここまで計算量が少なく探索を行うことが可能なのか?

これが原理だ。データを登録するときに、そのデータ自身の値を使って何らかの計算を行って、格納位置(通常、データ小僧としては配列を使うので、その添え字のこと)を決定します。

登録するデータが整数と仮定する。そこで、登録するデータの値をnとした時、nを100で割ったあまりを格納位置にするというルールにする。そのときの格納位置は、537%100という計算により、37に決定される。

探索するときも、同じ計算をすれば、即座に格納位置を取り出せるというアルゴリズム。

- 2. 適当なハッシュテーブルを作り、データ投入と検索を行ってみよ。
 - 名前に対応する電話番号
 - 名前と住所 etc

【作成したプログラム】

```
public class HashElem {
   String key;
   String value;
   Boolean empty;

HashElem() {
    key = "";
    value = "";
   empty = true;
}
```

プログラム1 HashElem

```
public class HashTable {
    final int size1 = 10;
    final int size2 = 15;
    int n;
    HashElem table[] = new HashElem[size2];
```

```
HashTable() {
   n = 0:
   for (int i = 0; i < table.length; i++) {
     table[i] = new HashElem();
public void insert(String k, String v) {
  int h = hash(k);
  if (table[h].empty != true) {
     while (h < size2) {
         if (table[h].empty == true) {
           break;
        h++;
  if (h < size2) {
     table[h].key = k;
     table[h].value = v;
     table[h].empty = false;
     n++:
  } else {
      System.out.println("テーブルがいっぱいです.");
      System.exit(1);
public void search(String s) {
   int h = hash(s):
  if (table[h].key.equals(s) != true) {
     while (h < size2) {
         if (table[h].key.equals(s) == true) {
            break;
         h++;
   if (h < size2) {
      System.out.printf("見つかりました。:%2d, %s,¥t %s¥n", h, table[h].key, table[h].value);
      System.out.println("見つかりません");
```

```
public void printHashTable() {
    System.out.println("*** ハッシュテーブル ***");
    for (int i = 0; i < size2; i++) {
        System.out.printf("%2d, %s,¥t %s¥n", i, table[i].key, table[i].value);
    }
    System.out.println("**********");
}

public int hash(String s) {
    return s.charAt(0) % size1;
}
```

プログラム2 HashTable

```
public class HashApp {
    public static void main(String[] args) {
        HashTable h = new HashTable();

        h.insert("SATO", "佐藤city");
        h.insert("SUZUKI", "鈴木city");
        h.insert("TAKAHASHI", "高橋city");
        h.insert("TANAKA", "田中city");
        h.insert("ITOH", "伊藤city");
        h.insert("WATANABE", "渡辺city");
        h.insert("YAMAMOTO", "山本city");
        h.insert("NAKAYAMA", "中村city");
        h.insert("KOBAYASHI", "小林city");
        h.insert("KATO", "加藤city");

        h.printHashTable();
        h.search("TANAKA");
    }
}
```

プログラム3 HashApp

【プログラムの解説】

HashTableの配列を作り、そこにデータを格納し、出力した。 java上で、変数を出力するための方法を知った。

【結果】

```
*** ハッシュテーブル ***
0,,
1, ,
 3, SATO,
               佐藤city
4, SUZUKI,
               鈴木city
               高橋city
5, TAKAHASHI,
 6, TANAKA,
               田中city
7, ITOH,
               伊藤city
8. WATANABE.
               渡辺city
9, YAMAMOTO,
               山本city
10. NAKAYAMA.
               中村city
11, KOBAYASHI,
              小林city
12, KATO,
               加藤city
13, ,
14, ,
見つかりました。 : 6, TANAKA,
                             田中city
```

図1 HashMapAppの出力結果

【考察】

ハッシュを用いた探索の方法を知った。

現在、自分がプログラミングをする時は、このような探索の仕方をせず、ライブラリに任せた 探索の仕方をすると思う。しかしながら、Hashという新しい方法を知れたことは、良かったと 思う。

今回のプログラムの改善点として、HashTableの最大値まで全てを展開している。これをもっとシンプルに記述したいと考える。例えば、入っている配列の全てを出力した時、最大値は、ooで、使っている配列の大きさは、xxですと出力をしたい。現在のプログラムだと、配列の大きさを1000などにした時の出力が長くなりすぎるからである。

【参考文献】

- 1. 「アルゴリズムとデータ解析の授業スライド」
- 2. 「増井敏克(2020)「Pythonで始めるアルゴリズム入門」翔泳社
- 3. 「ハッシュ探索①(チェイン法) | Programming Place Plus アルゴリズムとデータ構造編【探索アルゴリズム】 第6章 」〈https://programming-place.net/ppp/contents/algorithm/search/006.html
- 4. 「参考文献の書き方」〈http://www7a.biglobe.ne.jp/nifongo/ron/ron_04.html〉